

2019年度 附属校社会科公開授業研究会

附属校教育研究・研修センター

10月3日(木)立命館慶祥中学校・高等学校において、標記研究会を開催しました。今年度完成したばかりの、アクティブ・ラーニング専用棟“Co-Tan”を主会場としました。

授業の講評は、北海道大学高等教育推進機構特任准教授 山本堅一 先生にお願いしました。山本堅一先生は、アクティブラーニング、授業におけるルーブリック評価、授業デザインの設計などを研究領域とされています。その他、北海道大学内外において、講演・講習会などを数多く実施されています。

なお、出席者は20名(慶祥11、長岡京2、宇治2、守山4、センター1)でした。

*“Co-Tan”は最先端のICTを活用し、スマートデバイスやアプリの連携によって、これまでにないスピード感ある授業進行と生徒同士のコミュニケーションを高め、グループ学習のなかでのアイデアの創出や、課題に対し深く掘り下げて考える力を養う教育を推進する施設として、2019年の6月4日(火)に竣工したばかりである。

1 テーマ 「これからの教育に求められる社会科授業にむけての取り組み」

2 時程

9:00~9:40	受付 開会式 社会科における授業実践(教科主任 西島)
9:55~10:45	研究授業Ⅰ(中学歴史:西島)
10:55~11:45	研究授業Ⅱ・Ⅲ(高校地理・公民:中村・菊・若松、中川・月舘)
11:45~13:25	昼食休憩(11:45~12:45にⅡの後半部分を実施)
13:30~14:20	授業合評会・基調講演 山本堅一先生(北海道大学)
14:20~14:30	閉会式・諸連絡

3 研究授業 (中学・高校、地理・歴史・公民分野を実施)

I	歴史分野	中学:SPコースに必要な受験学力を養成するAL型授業	西島
II	地理分野	高校:地理用語の知識定着確認に資する授業実践の試みと報告	中村・菊・若松
III	公民分野	高校:政治経済授業におけるICT活用の実践と報告	中川・月舘

4 研究授業Ⅰ:歴史分野 中学:SPコースに必要な受験学力を養成するAL型授業 指導計画案

①授業のねらい

本校SPコースは「東大・京大・医学部への合格」をかかげ、高い進学実績の実現をめざした指導を行なっている。一方で昨今の大学入試改革は、学習者の「思考力・判断力・表現力」を養うことを求めている。上記のような状況に対し、本授業は、大学入試レベルの問題演習を通じた知識の定着と、思考力の養成を目的として設計したものである。教材設計のうえで留意したことは、①難関国公立大学の二次試験問題を演習問題のモデルとし、語句指定を与えることで、おさえるべき単元の復習へと学習者を誘導すること、②資料を与えることで、授業内の知識を応用して解答する思考力を育てられるようなものとしたこと、である

②授業計画

【導入】現在までの授業の復習(10分間)

日中戦争が単なる戦争ではなく、近代日本史上はじめての長期戦・総力戦だったことを復習し、それが国内の経済のあり方にも変更を加えるものだったことを確認する。

【展開】教材の提示、問題の配布、演習(個人作業から近くの生徒とのペア・グループワークへ)(25分間)

教材を提示する(問1のシートのみ)。個人で解答を考えてもらい、その後近くの生徒とペア・グループで解答を共有する。時間をみて教員と対話式でキーワードをおさえ、採点基準を分析していく。その後、問2・3の演習も同様に行なう。

【まとめ】各解答の共有(10分間)、ふりかえり(5分間)

各生徒の解答のうち、特にポイントをおさえているものを共有し、紹介する。ただの問題演習に終わるのではなく、各生徒の思考が他の生徒に共有され、互いの理解が深まるよう留意する。

<参考資料>

【図1】大政翼賛会宣伝部監修『マンガ絵本翼賛一家』の広告(略)

【図2】長谷川町子『翼賛一家大和さん』（1941年）（略）

【図3】長谷川町子『サザエさん』表紙（略）

【資料1】源川真希『総力戦のなかの日本政治』（2017年）

1940年9月11日、(中略) 全国に町内会・部落会・隣保班(隣組)を組織・整備することとなった。だが、これは単なる伝統的組織の利用にとどまるものではない。むしろ、新しい国民支配機構の創出に他ならなかった。(中略) 町内会・部落会・隣組は、戦時体制を支える組織として機能し、敗戦後も食糧配給をはじめ生活に欠かせない役割を果たした。

問1 日中全面戦争以降の議会政治の歴史の中から、議会政治が空洞化することとなった事例を2つあげ、その各々がどのような意味で議会政治の空洞化につながったのか、説明しなさい。またこの時期、政府は国民の意識をどのように戦争協力へ向かわせたのかについて、上の各資料をふまえて170文字前後で説明しなさい。(一橋大学改, 2005年)

問2 日中戦争の全面化にともない本格化した戦時経済統制は、戦後の日本社会にまで強い影響を与えた。日中戦争の勃発から1945年の敗戦に至るまでの経済統制の展開について、具体的に180字程度で述べなさい。説明にあたっては、以下の語句を必ず使用しなさい。(大阪大学改, 2015年)

①マッチ ②企画院 ③勅令 ④物価

問3 次の表は1920(大正9)年から1970(昭和45)年までの時期の市町村を人口規模によって、①50万人以上、②10万人以上50万人未満、③5万人以上10万人未満、④5万人未満の4つのグループに分け、それぞれのグループの総人口の推移を示したものである。これをみて、下記の問いに答えなさい。

[表 人口規模別市町村人口] (単位:千人)

年次	①50万人以上	②10~50万人	③5~10万人	④5万人未満
920	4,626	2,127	2,105	47,119
1930	7,605	3,876	4,402	49,566
1935	12,645	4,873	3,685	48,051
1940	14,384	6,907	3,858	47,964
1945	5,969	5,045	5,397	55,585
1950	11,190	10,136	6,307	55,566
1960	18,492	19,310	10,724	44,892
1970	25,418	28,109	12,364	37,829

【問】1940年から1945年の間に、①と②の人口が減少し、③と④の人口が増加している。この変化がこの5年間に起きた理由は大きく分けて、戦時下の政策的な対応によるものと戦況の変化そのものと求められる。このことを具体的に説明しなさい。

(一橋大学, 2010年第2問)

5 授業担当者のコメント

<研究授業I>

本校SPコースは学力も高く、学習に対する意欲・関心も高い生徒が所属しています。そのため、新大学入試をみすえた学力をつけることを日々の課題をして考えており、研究授業のおもな観点もそこにありました。言い換えれば、学習意欲を涵養する一方で、論述問題を解くこと、資料問題を読み解くことを通じて、新大学入試で設定される歴史教科の問題に対応できる学力をつけることです。

したがって、今回の授業準備では、生徒に設定する論述問題の難易度設定に多くの時間を費やしました。にもかかわらず、講師の山本先生に「知識にかたよった出題となっている」と指摘されたことは、みずからの授業設計をもう一度確認しなければならないと考えるきっかけとなっています。つつい知識一辺倒で「教え込み」過ぎてしまう社会科の授業デザインを、どう変え、設計していくか。今後も考え続けていきたいと思います。(中学歴史:西島)

<研究授業II>略

<研究授業III>略

6 北海道大学山本堅一先生の講評(記録 西島)

大学で学習意欲の研究をしているが、学習環境の整備というのはとても重要であり、Co-tanのような施設は学習意欲の喚起としては有用である。

①研究授業Ⅰについて

- ・最初の復習があまり意味をなしていないのではないか。ALをすることはメリハリが重要，講義内容は削らねばならないので「聞くときは聞く」「考えるときは考える」と教員側が設定すべき。
- ・授業内の問題設定について。問1について，今後求められる学力を考えると適切な問題設定とはいえない。今後は，知識を覚えていることはあまり問題ではない。資料を読み解くことで知識をはかるような問題が設定されるべき。その意味で，問3のようなものが今後定番になっていくのかなと思う。

②研究授業Ⅱについて（略）

③研究授業Ⅲについて（略）

7 参加者の感想（略）

《編集 附属校教育研究・研修センター 今宿純男》